

12月26日(土)～2016年1月25日(月) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 大島 佑介



大島 佑介

1985年栃木県生まれ。父親の影響でキース・ジャレット、ビートルズが好きになる。映画『トレインズポッピング』でアンダーワールドのボーン・スリッピーを聞いてからは、高校、地元のクラブでボランティア・スタッフをしながらDJを少しばかりスタート。2006年、ヘアサロン「twiggy.」に入社。カラーリストとしてサロンワークに奮闘中。入社後9年間、日々のコンディションを考えながら、新旧様々なジャンルの音楽をとり混ぜ、サロン内の選曲を続けている。

今回のセレクトCD

- 

1. Dirty Three / Whatever You Love, You Are (Bella Union / BELLA CD 16)
オーストラリアのメルボルンで1992年に結成。ヴァイオリンのウォレン・エリス、ドラムスのジム・ホワイト、ギタリストのミック・ターナーからなるインストゥルメンタル・ロック・バンド。濁ったドラムに次々に重ねられるヴァイオリン、情緒的なギター。ジャズ、ブルース、グランジまでを貪欲に飲み込み静謐と言うべきなのか？地底を彷徨い差し込む光、砂漠を朦朧と進み続けているようなバンド。
- 

2. Joanna Newsom / Joanna Newsom & The Y's Street Band - EP (Drag City / DC336CD)
2004年に『The Milk-Eyed Mender』でデビュー。ハーブの分散和音が宙を舞って牧歌的。バンジョー、アコーディオン、パーカッションのシンプルな演奏と、時折ネジの外れたドリーミーで独創的なジョアナ・ニューソムのヴォーカルとグランド・ハーブの弾き語り。2006年に『Ys』を出した後、ツアー・メンバーとの演奏をライブレコーディングしたEP盤。一度耳にしたら忘れられない歌声とハーブの音色。月明かりの下、心を委ねてみては？
- 

3. Manu Delago / Silver Kobalt (Beat / BRC464)
ドラマー、パーカッショニスト、ソングライター、プロデューサー、と、多彩な活動をするマヌ・デラゴ。独特な美しい音色を発して残す、ハング・ドラムの使い手でもある。ビョークが『Biophilia』、『Vulnicura』と2作続けてアルバム・ツアーのメンバーに指名して注目を集めた。錚々たるアーティストとの共演を経ての今回のアルバムは、今までのオリエンタルなハングの響きだけに収まらず、モダンなエレクトロビート、ソングライティングがプラスされ、和みだけでなく力強さが増した。これからの彼には注目。
- 

4. Aphex Twin / Selected Ambient Works Vol.2 (Warp / WARPCD21)
エイフェックス・ツインことRichard D. JamesによるR&Sから出た1992年のアルバム。出会ったのは高校生の時、当時テクノやトランス・ミュージックにどっぷりだった頃で、このアンビエント・ミュージックは衝撃的だった。聞き始めは、透明で穏やかな茫洋としたフレーズともいえないフレーズが漂うように拡散していく。輪郭もない不安が冷たく広がっているような乾いた物悲しさ。何度も寝しなに聞いている、独特の世界に引き込まれた思い出がある。
- 

5. Erik Mongrain / Equilibrium (Dreamusic / MUCX-81001)
初めてエリック・モングレインを知ったのは、You Tubeに彼自身が投稿していたビデオだった。ギターを膝の上に水平に置いて弾くスタイルは彼独特の奏法で、「ラップタッピング」と呼ばれるようになったと思う。このアルバムでも指が弦の上を歩くようなテンポでコードが刻まれる。浮遊するような心地にさせてくれる美しく力のあるメロディと、軽やかな音色、タッピングが奏でられている。